



講師インタビュー：森の新しい価値を生み出し、次の世代に繋ぐ人

今回は、株式会社プノントイ代表取締役社長の吉成絵里香にお話をお聞きました。

1. 現在のお仕事や活動について
はじめまして。株式会社プノントイ代表取締役社長の吉成絵里香と申します。森林・里山の新たな価値を生み出し、自然環境を将来世代につなぐことをミッションに、森林の香りを活かした商品開発や、森の空間を活かした企業研修プログラムの提供を行っています。

2. 今回のプログラムを開発したきっかけ
日本は森林が多い国ですが、その価値を十分に活かしてきていない現状があります。各地の森を訪れる中で、森には人をリラックスさせ、気づきや学びを深める力があると感じ、森林体験に講義やワークショップを組み合わせた企業研修プログラムを開発しました。

3. 今回のプログラムを通じて解決したいこと、目指すこと
このプログラムでは、地域の森林保全と企業の人材育成の両方を進めたいと考えています。森での体験を通じて、環境やサステナビリティを自分ごととして捉え、実務につなげられる人材を増やしていくことを目指しています。

4. 今回のプログラムの特徴は何か？
特徴は、実際の森林をフィールドに研修を行うことです。関東近郊では千葉県長南町、神奈川県相模原市、埼玉県北本市など、首都圏から日帰りでも参加しやすい場所で実施しており、自然の中だからこそ深い気づきや対話が生まれます。

5. プログラムのこだわり
単なる森づくり体験で終わらず、自社の業務や課題にどうつなげるかで考える設計にしている点がこだわります。体験に加えて講義やワークショップを組み合わせることで、学びを実務に落とし込めるプログラムにしています。

6. 今まで導入されて企業様はどのような企業が多いでしょうか？課題感や業種、企業の規模など。
導入企業は、建設、通信、製造、レジャーなど幅広い業種にわたっています。環境方針を社内に浸透させたい、環境教育を進めたい、中堅社員のエンゲージメントを高めたい、自社のサステナビリティプロジェクトを形にしたいといった課題感を持つ企業が多いです。

7. 企業様の課題やニーズに応じて研修内容やフィールドを選定したり、カスタマイズされるのでしょうか？
はい。企業ごとの目的や課題に応じて、最適なフィールドや体験内容を提案しています。(裏面へつづく)

Next Seminar



Sep.4,2026

～AI時代に求められる「感性」を磨く～フラワーダイアログ体験セミナー

本体験セミナーでは、MOA美術館の企業研修「Art Insight Program」として、花を通じて自身の感性と向き合う「FLOWER DIALOG WORKSHOP」を体験します。

日常業務から少し離れ、頭で考えるだけではなく、五感で感じてください。

詳細はこちらです。
<https://entrelabo.co.jp/public>

9 TUE
8 体験型企業研修
紹介セミナー

一森で育む、主体性・協働性・リーダーシップー

2026.9.8(火) 15:00~16:30
@axle喫茶ノ水

事前申込制
9/7まで

株式会社アントレ・ラボコーポレーション
代表取締役社長 伊藤 正志

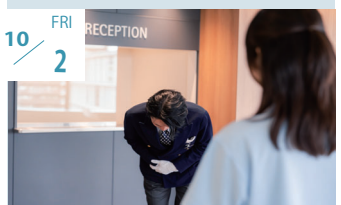
株式会社プノントイ
代表取締役社長 吉成 絵里香

Sep.8,2026

森林研修 事例紹介セミナーー森で育む、主体性・協働性・リーダーシップー

アントレ・ラボコーポレーションとプノントイの共催で、森林体験を活かした企業研修の事例紹介セミナーを開催します。人材育成やチームビルディングに森を活用する意義や実際のプログラム内容、研修フィールドの魅力を具体的な事例とともにご紹介。「自分ごと化」を生む体験型研修が、なぜ今企業に求められているのかを、クロストークとQ&Aで掘り下げます。

詳細はこちらです。
<https://entrelabo.co.jp/public>



Oct.2,2026

経営者・人事担当者必見! ～カスハラ対策の第一人者・津田卓也氏が徹底解説!最新事例から学ぶ「カスハラ対策の最前線」

本セミナーでは、カスハラ対策の第一人者として多くの企業支援を行ってきた津田卓也氏を講師にお迎えし、こうした国の法改正と社会の動向を踏まえながら、企業が今取り組むべき実践的な対策について学びます。

詳細はこちらです。
<https://entrelabo.co.jp/public>

その上で、講義やワークショップも組み合わせながら、それぞれの企業に合った研修プランへとカスタマイズしています。

8. プログラムを実行するにあたり、地域の方にも関わってもらうことはあるのでしょうか？
はい。各地の森林保全に取り組む NPO や森林事業者の方々と連携して実施しています。企業研修で人が森に関わることで、地域の森づくりや生物多様性の保全にもつながるような仕組みにしています。

9. 貴社で提携しているフィールド以外で研修を実施することもあるのでしょうか？
提携フィールド以外での実施についても相談に応じています。たとえば、自社工場の近くの緑地や、自社で所有している森を活用したいといったニーズにも対応し、企業にとってより身近な場所で研修を行えるよう工夫しています。

10. 導入された企業の感想や研修後の変化はありましたでしょうか？
参加企業からは、環境や社会課題が知識としてではなく、自分ごととして捉えられるようになったという声を多くいただいています。研修後には、自分が次に何をすべきかが明確になり、実際の業務の中で取り組みが進んだという変化も生まれています。

12. 吉成さん自体のキャリアについてお話いただければと思います。どのように今のお仕事につながっているのでしょうか？
大学時代から森林の生物多様性を学び、その後は JICA 海外協力隊としてカンボジアで環境教育に携わりました。帰国後は民間のシンクタンクで自治体の環境政策づくりにも関わり、自然の価値を社会に伝え、保全につなげたいという思いが現在の事業につながっています。

13. 今までの中で印象残っていること、出会いなどございますでしょうか？

事業を一人で始めた当初から、理念やビジョンに共感してくださる仲間が少しずつ集まり、現在は 8 人のチームになっていることが印象に残っています。また、企業や NPO、森林事業者の方々との出会いが広がり、各地で取り組みが形になってきたことも大きな励みになっています。

14. 今後のビジョンについて教えていただければと思います。

森林の荒廃や林業をめぐる課題は、今もなお多く残っています。今後はこのサービスをさらに広げることで、森を活かしながら保全していくことの大切さを社会に広め、単発で終わらない継続的な森づくりと人材育成の仕組みをつくっていきたいと考えています。

15. 購読者へのメッセージ

皆様の身近な職場や工場の周辺にも、きっと自然があると思います。そうした自然に目を向けることが、自社の事業をより持続可能にし、新しいアイデアや取り組みにつながるきっかけになります。ぜひ一緒に、自然と仕事の未来をつなぐ取り組みを進めていけたら嬉しく思います。

今回インタビューした動画は下記にございます。

<https://x.gd/e6DEi>

また吉成さんを講師に 9/8 の体験説明会の詳細は以下にございます。ご興味ある方は是非ともご参加いただければと思います。

詳細ページ

<https://entrelabo.co.jp/public>

お申込み

<https://entrelabo.co.jp/public#registration>



【コラム執筆】

人と人、人とコトの仲をつなぐ
仲津定宏

今回吉成さんのインタビューをして感じたことは、とにかく自然体であること。ある意味で、大学時代から生物多様性、海外協力隊など、自分の向かうべき道をあゆみ続けている印象があり、それが力みや、重圧になっている感じもなく、自然体に行っている感じがしました。

セミナー実施報告

世代間コミュニケーション研修 実施報告



先日、「世代間コミュニケーション講座～昭和から令和世代を理解～」を実施いたしました。講師には、組織課題の解決やコミュニケーション研修を数多く手掛ける岡佐紀子氏をお迎えし、世代間の価値観の違いを理解しながら、心理的安全性の高い職場づくりについて学びました。

昭和・平成・令和それぞれの時代背景や働き方、価値観の違いを整理し、世代間ギャップは「間違い」ではなく「育ってきた環境の違い」から生まれるものであることを学びました。

さらに、世代間で起こりやすいコミュニケーションのすれ違いを事例を交えながら確認し、相手の価値観を否定せず背景を理解する姿勢や、歩み寄りを促す対話方法、相手に伝わりやすい言葉の選び方について実践的なワークを通じて理解を深めました。